



株式会社 ファルマ

弘前市北横町 19-1
Tel 0172-37-6016(代)

発行：編集委員会
印刷：小野印刷

■ 第 97 号 ■

二〇一五年度

株式会社ファルマ入社式 及び新入職員歓迎会



4月4日歓迎会にて盛薬剤師、澁谷薬剤師からお祝いされる3名

ファルマでは今年度、薬剤師1名(須藤雪絵さん)、事務2名(鈴木菜夏さん、須藤江利加さん)の合計3名の新入職員を迎えることができました。

まず4月1日(水)、3月27日の薬剤師国家試験の

合格の報告も兼ねて、薬剤師の須藤雪絵さんが各薬局に挨拶に行きました。須藤さんから報告すると、各薬局では温かい言葉が須藤



4月3日石川社長の講義を受ける3名(左から鈴木菜夏さん、臨時職員から正職員へ登用された須藤江利加さん、須藤雪絵薬剤師、石川社長)



お祝いのくす玉で感激中の須藤雪絵薬剤師

藤さんに向けられました。特に一ツ谷薬局では、年々豪華になってきているくす玉でお祝いされ、須藤さんは大変感激していました。

続いて、4月3日(金)には新入職員3名へ石川社長の「社史・医療人としてのマナー」をはじめ総勢5名の講師からオリエンテーションが行われました。

翌4月4日(土)にはホテルナクアシティ弘前12階にて入社式と歓迎会が開催

されました。まず、初めに石川社長から歓迎と激励の言葉の後、3名の新入職員へ辞令を交付しました。続いて3名を代表して薬剤師の須藤雪絵さんから挨拶がありました。その後、昨

年度入職した盛友莉恵薬剤師と澁谷友明薬剤師から、いつでも先輩たちを頼ってくださいとの温かいメッセージがあり、始終和やかな雰囲気で開催が行われました。

須藤雪絵さんへアンケート



質問①

自己紹介をお願いします。弘前市出身の須藤雪絵です。

質問②

ファルマに入社した動機は何ですか？
実務実習で勉強させてい

質問③

どのような薬剤師を目指しますか？
患者さんから信頼され、患者さんをサポートできるような薬剤師を目指したいです。

新入職員紹介



弘前調剤センター 薬事課
鈴木 菜夏

この度、株式会社ファルマの一員となりました鈴木菜夏と申します。大学で学んでいたことは医療業界とは関係ない

ものでしたが、就職活動を通してこのような分野に興味をもち始めました。しかしまだ分からないことや不慣れなことが多く、ご迷惑をおかけすることがあるかとは思いますが、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。1日でも早く一人前になれるよう日々努力して参りたいと思っております。

県連第8回

一職場一事例検討会に参加して

本部 佐々木 良太

2015年3月14日浪岡中央公民館で行われた「第8回一職場一事例検討会」に参加させていただきました。131名もの多くの参加者が集まり、発表と意見交換をしました。

「憲法に関するアンケート」の集計結果についての発表がありました。そこでは、日本国憲法を自分なりに理解していますか?という質問に対して「よく理解している」「大まかに理解している」を合わせて57・5%



全体会で演題発表する工藤課長(写真奥)

で、4割の職員が理解していないという結果になりました。幾つかの質問の中で気付いたことは、若年層の理解率が非常に低かったということです。私自身よく理解していると、自信をもって言えるわけではないので、これからの社会を担う者として、社会、政治について、学習していくことと、たくさんの方に理解していただくよう、呼びかけていきたいと思いました。

じ取れるアンテナがいかにか大切に学びました。今回参加して、私たちは患者様に寄り添い、時には

勇気もち代弁者として、行動していかなければならぬと強く思いました。

ファルマの事例紹介 (2演題発表)

■ 全体発表

「借金を抱えた支払い困難事例にかかわって」

弘前調剤センター 薬事課 課長 工藤 敏子

■ 分散会発表

「認知症患者の

服薬管理困難事例への対応について」

弘前調剤センター 主任補佐 高橋 和希

■ その他

「職種の壁を超えて窓口対応」

弘前調剤センター 薬事課 主任 葛西 祐一

「支払い困難事例対話①」

弘前調剤センター 齊藤 駿介

「生保への架け橋」

弘前調剤センター 薬事課 成田なつみ

「物忘れがひどくなっている患者様への対応」

藤代薬局 薬局長 相馬 渉

「認知症患者への対応」

藤代薬局 西沢 光

「認知症患者の未収金対応から

治療中断した事例」

ファルマ 一ツ谷薬局 薬局長 津川 俊彦

ファルマ 医療安全委員会学習会

弘前調剤センター 主任補佐 高橋 和希

3月18日ファルマ医療安全委員会主催の感染対策学習会が開催されました。今回は健生病院の医療安全管理室の感染管理認定看護師である北山優子さんに講師をしていただきました。

標準予防策として、手指衛生や環境整備は徹底して実施していくべきだと感じました。忙しいといつ疎かになってしまいがちですが、病院で徹底しているのに薬局でそれを怠っているのは、せっかくの医薬分業も台無しです。直接患者様に触れる機会は少ないですが、受付や会計、服薬指導など至近距離で患者様と向き合うことが多いので、飛沫感染などで自分自身また自分が介して他の職員や別の患者様に感染させるリスクがあることを十分に理解し、感染対策の意識を高めることが必要だと感じました。また、今回の学習会で学んだことを活かして、薬局版の感染対策マニュアルを作成していければと思います。



いつも通りに手を洗ってみると?汚れが残っているか確認中!

2015.3.8

NO NUKES DAY

反原発統一行動に 参加して

弘前調剤センター 薬剤師 盛 友莉恵



集会に参加した盛薬剤師

3月8日、日比谷野音(大音楽堂)・国会議事堂周辺にて、「NO NUKES DAY」反原発統一行動が行われました。全国から参加者が集まり、この日、およそ2万3000人が参加したそうです。現在の政権があらゆる問題に立ちほだかる障壁になっていきます。原発問題、集団的自衛権・憲法改正・沖縄米軍基地・秘密保護法など、参加者一丸となって反対の意を国会に届けました。国会包囲・

デモ行進では参加者がこぼしを上げ「原発いらない」「再稼働反対」の掛け声がビル街に響かせる様子は圧巻でした。今まで社内や社外で様々な社会勉強をする機会がありました。これほど活発で挑戦的で強い意思表示を感じた集会は初めてでした。現行の政治に屈することなく、今後も平和活動をあきらめずに続けていくことが「平和で安心して暮らせる社会」をつくる第一歩だと思えます。この統一行動に参加して、国民の願いを訴え続けることに大きな意味があると改めて感じました。

仙台高裁で私たちは 如何に闘ったか

青森生存権裁判を支援する会

弘前地区連絡会第8回総会

常務取締役 高松 利昌

3月12日、青森生存権裁判を支援する会弘前地区連絡会第8回総会が津軽保健生協本部ホールで開かれまし。開会挨拶で連絡会の工藤トミエ副会長は「生活保護受給額の約2割を占めていた高齢加算の減額が始まってから10年、廃止から8年になりました。」と振り返り、青森原告団長の茂木さんは「84歳になりました

た。動ける限り頑張りますので宜しく願います。」と支援を訴えました。その後、原告弁護士が「仙台高裁で私たちは如何に闘ったか」と題しておよそ一時間にわたって記念講演。仙台高裁での審理の特徴は級地間格差や寒冷地での生活実態について唯一証人調べが行われたことであり、

裁判所も判決の中で原告らの生活実態に触れざるを得なかったことだとしました。そして、上告審では「生存権は絵に描いた餅」ではなく、「政府の生活保護切り下げ政策に、もっと厳しい司法審査」を求め、取り組みたいと決意を述べました。総会は、提案された議案を満場の拍手で承認しました。



講演した葛西聡弁護士



要望書を手渡す木村宗一郎会長(写真左)

『弘前市の 介護保険を良くする会』 が市へ要望書提出

弘前市第6期介護保険制度がスタートするのを前に、3月9日(月)『弘前市の介護保険を良くする会』の木村宗一郎会長(健生病院整形外科医)らが弘前市役所を訪れ市長宛ての要望書を健康福祉部長に手渡しました。「介護保険料基準額を当面月額1000円引下げ、低所得者に対しては国基準の軽減措置を講ずること」「介護給付抑制を目的とするケアプラン適正化はやめて下さい」など

10項目にまとめたものです。この行動に参加したのは木村会長のほか、津軽保健生協福祉部の小西副部長、当社からは藤代薬局の相馬薬局長をはじめ3人、その他会員2人の計7人です。また、日本共産党の石田市議も同席しました。木村会長は「介護を提供する側、受ける側の双方が安心できるサービスが提供されることを望みます」と述べていました。

【高松利昌】

県連教育委員会スキル

アップセミナーに参加して

弘前調剤センター 主任 葛西 祐一

今回のセミナーでは、青年職員の育成をテーマに全日本民医連事務局次長の岩須靖弘氏を講師に「青年職員への理解と指導」について学びました。民医連運動は医療機関・介護事業所の運動で職員が主人公であり、民医連を理解し共感し若者が連続して担い続けることに組織の未来があると話されており、青年職員育

成が重要な鍵となってきました。今の青年職員は、新自由主義の中で生き残り競争を強いられた結果、負け組は自己責任と言われる時代を生きてきました。いじめや仲間からの孤独をそれぞれ、孤独を避けるために気遣い、大きなストレスを抱え精神の不安定・表現の萎縮・心を閉ざし言いたいことも

言えない青年に育てられた青年職員と、どうやって向き合い教育していくのか？これまでの表面的な「わきあいあい型」の仲間作りではなく、話しあい・聞きあい・学びあい・助けあい・支えあい・活かしあう「チームワーク型」の仲間作りと、自分の新しい発見と自分への信頼と自信をもたせることが、教育の一つとして重

要になってくると思います。セミナーを受け、多くのことを学び考えることが、今後の青年職員の育成や職場作りの方向性が見え、自分なりの答えが出た気がします。



講師の岩須靖弘事務局次長

黒石診療所訪問看護学習会

3月17日(火)黒石診療所訪問看護学習会が開催され、黒石薬局の木村匡宏薬局長が講師をしました。テーマは「麻薬の管理法について」でした。医師2名をはじめ21名の参加がありました。



講師の木村薬局長(写真右奥)

あの頃のわたし

弘前調剤センター 薬事課 中西 将太

幼い頃の私は、両親が共働きだったため、いつも祖母の家にお世話になっていました。他に男の兄弟も従兄弟もいなかったため、とても可愛がってもらっていました。

そしていつも私は近所の田んぼの横を流れている水路で遊んでいました。もちろんやることは一つ。ドジョウすくいです。いかに大きな、多くのドジョウを獲ることができるのかを追求し、その虜になっていたのです。20cmくらいのドジョウを獲った時には皆に自慢しましたが、誰もきいてくれませんでした。しかし、祖母だけは喜んでくれました。それが今の私の趣味である釣りに、つながっているのではないかと思います。

水路に落ちてビショビショになったことが何度もありました。それほど大きな水路ではなかったのですが、長靴の丈が短かったため、いつも長靴を汚していました。毎日のように汚くなって帰ってくる私を、祖母は優しく迎えてくれたのを覚えています。

いまでも小さな水路を見ると、ドジョウがいなか探している私がいま。皆さんも小川を見つけた際には、ドジョウを探してはどうでしょうか。



釣りの虜となった瞬間の一枚

県連事務委員会主催事務職責者研修

本部 主任 阿部 千佳子

3月26日(木)浪岡中央公民館にて「事務職責者研修」が開催されました。テーマは「メンタルヘルス」で、講師は藤代健生病院 臨床心理士の山口真理子氏でした。

講師の方のお話の中で印象的だったのが、普段からの声掛けの大切さです。まずは不調に気付き、その上での目標は医療機関等の受診に「つなぐ」ことが一番重要であり、役職者はゲートキーパーにならなければならぬことが分かりました。また、話の効果的な聴き方も学びました。

そのことを踏まえ、3人ひと組で「話し手」「聴き手」「観察者」に分かれ、模擬面接をしました。普段、何気なく話していることも観察者からアドバイスがあったり、他の方の話の共感の仕方など大変勉強になった研修でした。



分かりやすく説明してくれた山口氏